

令和 5 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 二兎を狙い（１年生）、二兎を追い（２年生）、二兎を獲る（３年生）～希望進路の実現 100%と自主活動の取組み 100%～
- 1 第一希望の進路を実現する確かな学力を養成する。
 - 2 さまざまな自主活動の体験を通して、しっかりした人権意識とグローバルな視点をはぐくみ、高い志を抱いて社会に貢献する人材を育成する。
 - 3 芸能文化の学びの中で新たな自分を発見し、大阪の文化の発展に寄与できる人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 進路を実現する確かな学力の養成
 - (1) 生徒が生き生きと学ぶ授業づくり
 - ア 生徒が生き生きと取り組む魅力ある授業づくりのために、研究授業、学校教育自己診断、授業アンケート等を効果的に活用する。
 - イ ICT を活用した授業を全教科で行い、進路実現とこれからの時代に求められる、知識・技能とそれを基にした思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する。
 - ウ 学習支援クラウドサービスを活用し、生徒の個別最適化の学びを推進し、生徒の第一志望の進路実現につなげる。
 - (2) 一人ひとりの生徒の希望の進路を実現する。
 - ア 大学関係者・卒業生による講演や大学見学など、進路について考える機会を用意し、希望の進路を実現する強い意志を育む。
 - イ 年間を通じた自習室運営、長期休業中の学習マラソンなどに学校組織として取り組み、生徒一人ひとりの学習習慣の確立を図る。
 - ウ 外部機関を活用して効率的に情報収集、情報分析を行い、新大学入試に対応した生徒支援のための情報共有を進める。
 - * 令和 4 年度の入試結果（国公立 20 名、関関同立 130 名（現役 8 クラス））を令和 7 年度の入試で国公立大学 30 名以上（R 2 :29 名、R 3 :25 名、R 4 :20 名）、関関同立合格 140 名以上（R 2 :127 名、R 3 :156 名、R 4 :130 名）（現役 7 クラス）とする。
 - (3) 生徒の心身の健康を育み、学力向上の土台作りをする。
 - ア 遅刻・欠席を少なくするなど基本的生活習慣及び自律的で規律ある生活態度を確立する。
 - イ 生徒が心身の健康を保ち安心して安全な学校生活を送れるよう、教育相談体制のもと学校保健の取組みの充実を図る。
 - ウ 災害や重大な事象に備えた危機管理体制を確立し、安全で安心な学びの場づくりを進める。
 - エ 学校における新型コロナウイルス感染及びその拡大のリスクを低減したうえで、学習支援クラウドサービスを活用し、生徒の学びを保障していく。
- 2 自主活動の充実
 - (1) 生徒会活動をはじめとする自主活動の充実
 - ア コロナ禍の中、行事の開催方法を工夫しながら生徒による自主的な運営の充実を図る。
 - イ 生徒が積極的にかつ安全に部活動に取り組めるよう、指導者の確保や環境整備に努める。
 - * 生徒向け学校教育自己診断における学校満足度を 100%に近づける。
 - (2) 外部連携とボランティア活動の充実
 - ア チャリティーマラソンの実施（国内被災地やネパールへの支援）をはじめボランティア活動を積極的に推進する。
 - イ 部活動・教科活動における異校種間の交流・連携、地域連携などを継続する。
 - (3) 芸能文化科の活動の情報発信と伝統文化の継承
 - ア 様々なメディアを通じて、芸能文化科の教育内容や外部連携の内容が伝わるよう情報発信を行う。
 - イ 外部との連携を推進し、芸能文化科が長年に亘って行ってきた活動を充実し、さらなる伝統文化の継承と社会貢献を行う。
- 3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実
 - (1) 自他を尊重することのできる幅広い人権教育に計画的に取り組む。
 - ア 令和 2 年度からの共生推進教室設置によりあらゆる教育活動において「ともに育ち二兎を獲る」教育を推進する。
 - (2) 「総合的な探究の時間」等を活用し、自らの将来に希望を持ち自己実現に向けて努力を重ねることができるよう、SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえた、キャリア教育を引き続き、ICT を活用しながら計画的に推進する。
 - (3) 他者への思いやりと貢献意欲を強く持ち、行動に移すことのできる、地域社会・国際社会で必要とされる人材を育成する。
 - ア WEB 交流や国内外留学等により、国内外の諸問題について理解し、発信する教育を充実し、国際社会に生きる人材としてグローバルな視点を養う。
 - イ 国際社会における意思疎通の手段の一つとして重要な位置を占める英語でのコミュニケーション能力を高めるため、授業・補習にとどまらず、朝の HR を利用した英単語テスト、英語スピーキングテスト、レシテーション・スピーチコンテストなど様々な取組みを積極的に推進する。
 - * 英語学力調査は平成 30 年度から全員が GTEC による 4 技能校内受験を実施、令和 7 年度の 4 技能平均 CEFR B1 以上を目標とする。
- 4 チーム学校のさらなる資質向上と学校の魅力発信
 - (1) 学校の課題を常に点検し、教職員研修の充実を図る。
 - (2) 校内研修の充実や、校務の精選・効率化、及び部活動の効率化により、働き方改革を推進する。
 - (3) 学校のさらなる魅力発信を積極的に行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 5 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
【学習指導】 ○生徒への質問項目「授業を受けることで知識量が増えたり技術が身についたりする」は 90%、「ICT を使った授業はわかりやすい」は 91%となり、学習指導については、前年より 2 ポイント増加した。一方で、保護者は「内容がわかりやすく、ためになる授業が多い」という回答は、78%にとどまっており、生徒と保護者の間に認識の差があることがうかがえる。アンケート等により保護者の困り感を把握しながら効果的	第 1 回（6 /23） （1）スクールポリシーについて ・卒業生・保護者としては、本校を選んだ理由は、大変だけど楽しい、たくさんやることはあるが、できることを選択して、楽しめる学校であるためと考える。学習面に加えて、行事など頑張れることがあるのは魅力だと感じた。 ・中学校側としては、生徒指導もきちんとしている。遅刻などの指導もきちんとしてくれるところは安心して生徒を送ることができる。

府立東住吉高等学校

な学習支援について検討していく。 ○生徒の回答では、「1人1台端末を効果的に活用している」の項目の肯定的回答が88%となり、が、前年より8ポイント増加した。また、「思考力を重視した問題解決的な学習を行っている」の項目は、生徒は88%、教員は89%と高い水準を維持した。ICT機器や学習支援クラウドサービスを最大限に活用し、思考判断や表現を重視した授業の推進、教育産業による学習支援クラウドサービスの導入、教員の業務負担の軽減を進めてきた成果が見られる。 【進路指導】 ○「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」については、生徒は91%、保護者も「進路について適切な指導を行っている」については89%、教員は「一人ひとりにきめ細かい指導している」についても92%と、いずれも高評価である。進路指導については学校目標の一つである『第一希望の進路の実現』を達成するために、今後も教育産業や大学等外部の教育機関を活用しながら、生徒・保護者・教員が連携し、効果的な進路指導を実施していく。 【生徒指導】 ○生徒への質問項目で「学校には相談することができる先生がいる」が77%となり前年度より3ポイント増加した。一方で、「先生の指導は納得できる」は81%で前年度より1ポイント減少した。また、教員の質問項目で「到達度の低い生徒に対する学習指導を、全体的課題として取り組んでいる。」の項目が80%と前年度より8ポイント増加したものの、他の項目と比較すると低い。到達度の低い生徒の学習指導を充実し、同時にきめ細かい教育相談を行うことで、生徒との信頼関係をさらに深めていく。 ○保護者の「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行い、相談にも応じてくれる」が84%で前年より3ポイント増加した。昨年度より欠席連絡のデジタル化を開始しながらも、必要に応じてきめ細かい家庭への連絡を行っており、保護者との信頼関係が深まっている。 【学校運営】 ○「東住吉高校で満足した学校生活を送っている」の項目は肯定的回答が生徒で91%、保護者で92%となっており、どちらも前年より2ポイント増加している。また、「学校行事に楽しく参加している」の項目では生徒・保護者とも97%とどちらも前年より2ポイント増加している。教員の働き方改革が進む中で、生徒や保護者が満足した学校生活を送れるように、組織的な行事運営を進めていく。 ○教職員向け「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある」の項目が62%と低いため、今後公開授業の回数を増やしていく。 ○生徒への質問項目「国際理解について学習したり国際交流に参加したりする機会がある」は86%となっており、前年より9ポイント増加した。今年度は、4年ぶりのスタディツアーの実施や、台北市立育成高級中学との姉妹校提携による交流など、多くの国際交流の機会を設けることができた。今後も将来、国際社会で貢献できる人材を育成する活動を充実していく。	・二兎を追うポリシーは確立しているので、もう一步、ぶつかり合って成長につなげていけるような経験ができる取り組みを考えてもらいたい。 (2) その他 ・私学無償化に向け、危機感をもって公立の改善を考えていく必要がある。本校は様々なニーズに応えてきたので、魅力を発信していけるようにしてほしい。 ・働き方改革について、個人の努力では改革は望めない。制度面でも検討が必要だが、現場で助け合う気持ちを持って解決策を実行する努力を望む。 ・メディアを活用して芸能文化科の生徒の頑張りをPRできればよいと思う。 第2回 (11/11) (1) 学校経営計画進捗状況について ・新型コロナ感染症の経験を経てICT環境が整い、さまざまな好影響を与えている。 ・教員もデジタル化の知識に格差があるのではないか。デジタル、アナログの併用、使い分けは先生方が苦勞されているだろう。また使いやすい教科、使いにくい教科もあるが、いずれも確実に知識を高める手法を選択してほしい。 ・教員間のチーム力も必要。情報共有・活用のために教員のコミュニケーション力の維持向上をめざす。 ・校務の効率化も大切だが、生徒とも心と心をぶつけ合い、教員の本質を崩さないでほしい。 第3回 (1/21) (1) 令和5年度学校評価について ・授業アンケート結果について、これまでも少しずつ上昇してきたが、今年度数値がさらにワンランク上がった印象。コロナが落ち着き、活動が戻ってきたことも影響している。また、ICTの活用で双方向のやり取り、個別の対応を行っていくことで生徒が求める授業の形となり、実践できている。 ・保護者が学校に期待しているのは、進学実績のみでなく、人間性を育ててもらえることである。東住吉高校は伝統や行事を大切にしていることが大きく評価できる。クラブや行事を通して気持ちをぶつけ合い、困難を乗り越えていくことで人間力が向上する。 (2) 令和6年度学校経営計画について ・働き方改革と行事の継承を進めていくために、教員全体で取り組んでいく。 ・体育祭は同窓会としても大事なこと。卒業生も組織の一員として活用してもらえるよう協力する。その他でも外部人材の活用は伝統行事の継承を維持するには必要となる。人材を精査して協力したい。 ・中学校でもコロナを機に行事を縮小し、働き方改革に役立ったことはある。行事の内容を元に戻して伝統を守ることは難しいが、中学生が高校を選ぶ際、行事を楽しみにしているところはある。行事を円滑に運営するために、外部の人材が入れる部分を線引きし、教員が関わることを明確にする必要がある。 ・高校は私学との比較が大きな壁となっている。私学が無償化であれば、私学の方がサービスがよいという印象がある。教員数、設備、サポート体制など保護者にとっては魅力があり、生徒との感じ方の差が出てくる。公立は本当に厳しくなっている。東住吉高校は教員が協力し合い、向上心があるので、先を見通した教育（学習サポート）を継続していただきたい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 進路を実現する確かな学力の養成	(1) 魅力ある授業づくり ア 新学習指導要領による授業内容の充実	ア・「評価検証PT」を継続し、校内研修・研究授業により、観点別評価について検証を継続して行い、授業改善をさらに推進する。	ア・学校教育自己診断における「思考力を重視した問題解決的な学習指導」の評価85%以上とする。 [85%] ・授業アンケート3.3以上を維持する。 [第1回 3.39、第2回 3.37]	ア・校内研修4回・研究授業3回実施。観点別評価の検証を継続して行うなど、好事例の共有が進んだ。 ・1人1台端末の活用方法のデータベースを作成し、授業実践の共有が進んだ。 ・生徒向け学校教育自己診断における「思考力を重視した問題解決的な学習指導」の評価88% (◎)
	イ ICTを活用した生徒の学びの深化	イ・あらゆる教科で学習支援クラウドサービスを活用した実践を継承・発展し、校内研修をさらに充実し、生徒の学びの深化を図る。	イ、ウ・「ICTの活用」の評価87%以上とする。 [87%]	イ、ウ・1・2年生は、個別最適化の課題を学習支援クラウドサービスにより定期的に配信。 ・教科書準拠型英語4技能デジタル教材を活用「主体的に学ぶ態度」の評価点数化に活用。
	ウ 個別最適化の学びの推進	ウ・生徒の個別最適化の学びを推進するため、学習支援クラウドサービスを拡大し、本格実施する。		・生徒向け学校教育自己診断による「ICTの活用」の評価91% (◎)
	(2) 進路実現のための取組 ア 外部教育産業との連携	ア・志望校情報交換会を前期・後期に開催して、生徒の志望校に関する情報を共有し、第一希望の進路実現を学校として支援する。	ア・国公立大学現役合格者数目標25/280名(1学級減)以上 [20名] 関関同立現役合格者数120/280名(1学級減)以上 [130名]	ア・国公立大学現役合格者数15/280名(1学級減) (△) 関関同立現役合格者数130/280名(1学級減) (◎) ・教員向けの志望校情報交換会を8回開催 ・3年保護者面談では、教育産業による学力分析

府立東住吉高等学校

	イ 大学等との連携 ウ 自習室及び QA スペースの活用 エ 個別最適化の学びの推進と英語の 4 技能を伸ばす取組 (3) 生徒の心身の健康の推進 ア 教育相談体制の充実 イ 進路実現に向けた生活習慣の確立 ウ 危機管理体制の充実 エ 新型コロナウイルス対策の充実	イ・大学・卒業生と連携し、進学相談会・大学見学会等の行事を充実する。 ウ・自習室の運営や学習マラソンの充実、学習オリエンテーション、基礎学力調査の活用及び学校経営推進費による QA スペースの活用により、懇談・質問への対応強化を図る。 エ・学習支援クラウドサービスを拡大し、本格実施し、生徒の個別最適化の学びを推進するとともに、生徒が主体的に英語の 4 技能を伸ばす取組や授業の工夫を行う。 ア・学年団、支援担当が共有を密にし、組織的な教育相談体制をさらに充実し、迅速に SC や福祉窓口と連携した対応を行うとともに、生徒がより気軽に相談できる学校づくりを進める。 イ・早朝の立ち番、挨拶運動、声掛け等の見守り体制を充実し、進路実現に向けて、基本的な生活習慣を確立させるため、遅刻カード導入により、組織的な見守り体制を強化する。 ウ・災害や重大な事象に備えた危機管理体制を確立するため、生徒・保護者への連絡体制のさらなる充実を図る。 エ・学校における新型コロナウイルス感染及びその拡大のリスクを低減したうえで、全講座で学習支援クラウドサービスを活用し、組織的に ICT の活用を推進し、生徒の学びを保障していく。	イ、ウ・進学相談会、大学見学会等を年 16 回以上実施する。[年 16 回] ・生徒向け学校教育自己診断での「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。[92%] エ・「ICT の活用」の評価 87%以上とする。[87%]《再掲》 ・ICT の活用による自宅学習を充実し、共通テスト入試結果のリスニング得点を前年度比 3 %アップとする。[54. 8] ・英語学力調査の 1 ・ 2 年生平均スコアの 4 技能平均スコアを前年度比 3 %アップとする。[1 年 728. 3、2 年 806. 1] ア・生徒の相談体制を継続し、生徒向け学校教育自己診断における教育相談の肯定的回答 74%以上を継続する。[74%] ・いじめアンケートと教員によるヒアリングを年 2 回以上実施し、いじめ対応についての肯定的回答は、生徒、保護者とも 88%以上。[生徒:89%、保護者 88%] イ・遅刻数の 5 %減少 [遅刻数:3436、53%増加] ウ・ハザードマップや避難場所の周知を行うとともに、保護者・生徒への緊急メール・ブログの迅速な発信を行う。 エ・「ICT の活用」の評価 87%以上とする。[87%]《再掲》	システムを活用し、より高いレベルの大学をめざす指導を行った。 イ、ウ・大学・卒業生と連携し、生徒・保護者対象講演会・進学相談会を充実。 ・進学講演会、大学見学会等を年 17 回実施。(○) ・生徒向け学校教育自己診断での「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」91%。(○) ・キャリアパスポートとして 3 年間を通じて、独自に『Dream Planner』を作成し、毎週の学習の取り組み状況を生徒がスケジュール帳形式で記入。担任が定期的に把握し、助言を行った。 ・平日 7 時から 18 時 30 分まで自習室を開室、働き方改革の促進のため、土日及び休業中は 9 時～16 時 30 分に変更し、当番制で実施。 エ・学習支援クラウドサービスを 1 ・ 2 年全員、3 年希望者に拡大し、ICT の活用による自宅学習を充実した。課題配信時期や方法については、さらなる効果的な手法を検討していく。 ・学校教育自己診断の「ICT の活用」91%《再掲》(◎) ・共通テスト入試結果のリスニング得点の全国平均との比較は、前年度比 3 %増加。(○) ・英語学力調査の 1 ・ 2 年生平均スコアの 4 技能平均スコア 3 %減少。(△) ・公務員志望者、総合型選抜志望者、支援の必要な生徒を対象にキャリア教育コーディネーターによる面接を拡大し、きめ細かい進路支援を行った。 ア・生徒指導体制の改革(イに記載)により、SNS によるいじめ事象、差別事象等において学年・生徒指導部・管理職の迅速な情報共有が進み、組織的な対応ができた。 ・生徒向け学校教育自己診断における教育相談の肯定的回答 77%。(◎) ・学校教育自己診断の「先生はいじめに真剣に対応」生徒 90%、保護者 88% (○) イ・遅刻カード、遅刻指導(早朝登校)、生活指導室常駐体制を導入し、迅速な生徒指導が可能になった。あらゆる生徒が納得のいく遅刻指導となるよう、生徒に寄り添った生活指導を行う。 ・遅刻数 2, 566 前年度比 26%減少 (◎) ウ・避難訓練で、緊急時の対応を周知するとともに、時間外や休業日においても保護者・生徒への緊急メールの迅速な発信を行った。(○) エ・全講座で学習支援クラウドサービスにより、ICT の活用によるサポートオンラインを活用し、生徒の学びを保障できた。 ・生徒向け学校教育自己診断による「ICT の活用」の評価 91% (◎)《再掲》
2 自主活動の充実	(1) 自主活動の充実 ア・新型コロナ禍の中の伝統の継承と行事のさらなる充実 (2) 外部連携・ボランティア活動の推進 ア・外部連携の推進と情報発信	ア・新型コロナ禍の中で、卒業生と連携しながら本校の伝統を継承しつつ、あらゆる行事の内容や手法を見直し、さらなる充実を図るとともに、自主活動の成果を広く国内外に情報発信する。 ア・外部連携、チャリティーマラソン、小中学生対象理科実験教室、クリーンアップキャンペーン等を積極的に推進し、自主活動の成果を広く国内外に情報発信する。	ア・生徒向け学校教育自己診断における学校行事の項目の肯定的回答 95%以上。[95%] ア・生徒向け学校教育自己診断におけるボランティアに関する項目の肯定的回答 90%以上とする。[90%]	ア・体育祭、文化祭における伝統の継承と生徒のノウハウの継承は、一定進んだ。教員の働き方改革を踏まえ、持続可能な組織運営が必要である。 ・生徒向け学校教育自己診断による学校行事の肯定的回答 96% (○) ア・チャリティーマラソンでは、地域・府立中学・高校と連携。全国道德教育研究協議会で小中高の教員に実践発表。同窓会・PTA によるボランティア活動支援が進んだ。 ・自己診断におけるボランティアの肯定的回答は 88%に留まった。今後も引き続き、参加生徒の拡大と情報発信に努めていく。(△)

府立東住吉高等学校

	（３）芸能文化科の活動の情報発信と伝統文化の継承 ア・芸能文化科の情報発信 イ・伝統文化の継承と社会貢献活動	ア・様々なメディアを活用して、芸能文化科の教育内容や外部連携の内容が伝わるよう、その成果を広く国内外に情報発信する。 イ・大学・マスコミ等、外部との連携を推進し、芸能文化科が長年に亘って行ってきた活動を充実し、さらなる伝統文化の継承と社会貢献を行う。	ア・芸能文化科の活動のLIVE 配信、中学校訪問を芸能文化科生徒全員で実施するとともに、中学校長会との連携を強化し、成果を発信する。[90 回] イ・芸能文化科生徒による社会貢献活動を引き続き実施する。	ア・中学校・大学・マスコミと連携し、芸能文化科の成果を広く国内外に情報発信した。加えて機材の譲受を積極的に行っている。 ・芸能文化科の活動のLIVE 配信、芸能文化科全生徒による中学校訪問実習は、生徒数減少により70 回にとどまったが、生徒によるSNS を活用した情報発信が進んだ。(○) イ・道頓堀春フェス 2023、生玉まつりヤング能、長唄協会演奏会をはじめ、地元警察と連携した平野区民大会や台湾の姉妹校等の海外の学校との交流活動において、長唄、狂言、日本舞踊等の演目を披露し、コロナ禍以前より活動が活発化し、生徒が自主的に活動することができた。全国唯一の学科として引き続き、社会貢献に努める。(○)
3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実	（１）人権教育の取組 ア・人権を尊重した教育の推進 イ・ともに学びともに育つ教育のさらなる推進 （２）キャリア教育の取組 ア・SDGs の視点を踏まえた、キャリア教育の充実 （３）国際理解教育の取組 ア・WEB 交流や国内留学の推進 イ・生徒による発表の機会の充実	ア・３年間を見通した人権教育計画と教材により、生徒主体の参加型人権行事や教職員対象の人権研修の実施し、あらゆる場面で人権を尊重した教育を推進する。 イ・共生推進校としてあらゆる生徒が、授業、自主活動において、地域と連携しながらともに学びともに育つ教育をさらに推進し、その成果を広く発信する。 ア・「総合的な探究の時間」において SDGs（持続可能な開発目標）の視点を踏まえ、ICT を活用しながらキャリア教育を充実し、積極的に情報発信をする。 ア・WEB 交流や国内外留学等により、国内外の諸問題について理解し、発信する教育を推進する。 イ・英語でのコミュニケーション能力を高めるため、志学や特別活動の時間等を活用し、生徒による発表の機会をさらに充実する。	ア・生徒向け学校教育自己診断における人権教育に係る項目の生徒の肯定的回答 90%以上を維持する。[92%] イ・生徒・保護者向け学校教育自己診断による「ともに学びともに育つ教育を実践」89%以上とする。[89%] ア・生徒向け学校教育自己診断での「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」92%以上を維持する。[92%] ア・生徒向け学校教育自己診断で、国際交流の質問項目の肯定的回答 77%以上とする。[77%] イ・学習支援クラウドサービスを複数学年に拡大し、英語レシテーションやスピーチのコンテスト等を充実する。	ア・立命館大学准教授を迎え、マイクロアグレッションについて教職員人権研修を実施した。 ・外国にルーツのある歌手による参加体験型の生徒対象人権コンサートを実施し、外国人差別をはじめ、同和問題、いじめ問題等あらゆる差別について考える機会とし、意見共有を行った。 ・生徒向け学校教育自己診断における人権教育に係る項目の肯定的回答 94%。(◎) イ・共生生徒について、端末を活用し、リアルタイムに情報共有を行う。共生推進校による実践報告会において好事例として共生コーディネーターが発表した。 ・生徒向け学校教育自己診断による「ともに学びともに育つ教育を実践」90%、保護者向け 91% (○) ア・生徒向け学校教育自己診断での「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」91%《再掲》にとどまったが、卒業生による相談会や1 人1 台端末を活用した発表が充実した。生徒が発表する機会をさらに充実させていく。(○) ア・7 月に台湾スタディツアーを復活し、生徒 41 名、参加。8 月に台湾の育成高級中学と連携協定を調印し、部活動、芸能文化科を中心に交流を行った。着付け体験、お箏の演奏体験は大変好評であった。 ・上記に加え、インドとの国際交流1 回、台湾とのオンライン交流を計2 回実施し、コロナ前よりも国際交流が活発化した。 ・生徒向け自己診断で、国際交流の質問項目の肯定的回答 86% (◎) イ・8 月から ALT を迎え、英語レシテーション・スピーチコンテストに向け、ICT による音読課題の自動採点機能の活用による自宅学習を充実し、英語の授業・志学を連携させた発表活動が進んだ。(○)

府立東住吉高等学校

4 チ ー ム 学 校 の さ ら な る 資 質 向 上 と 魅 力 発 信	（１）職員研修の充実 ア・ミドルアップダウンによる教職員研修	ア・ミドルアップダウンにより、校内の課題を分析・検討し、外部講師を活用しながら教員力アップにつながる実践的な教職員研修を計画的に実施する。	ア・教職員向け学校教育自己診断「校内研修は教育実践に役立っている」82％以上をめざす。[80％]	ア・ICT活用研修、デジタル採点研修、人権研修、共生実践研修２回、SC 不登校支援研修、不祥事防止研修等、主担が企画し、学習支援クラウドサービスを活用し、参加体験型の実践発表が活発になった。 ・教職員向け学校教育自己診断「校内研修は教育実践に役立っている」90％。（◎）
	イ・共生推進教育の充実	イ・共生推進教室設置４年めとなり、進路実現につながる、ICT を活用した効果的な支援方法について、教職員研修等を通じて共有するとともに、その成果を広く発信する。	イ・生徒・保護者向け自己診断による「ともに学びともに育つ教育を実践」89％以上とする。[89％] 《再掲》	イ・毎授業で共生生徒の頑張りを表計算ソフトに入力し、リアルタイムに情報共有を行う。共生推進校による実践報告会においても好事例として共生コーディネーターが発表した。 ・生徒向け自己診断「ともに学びともに育つ教育を実践」90％、保護者向け 91％（○）《再掲》
	（２）働き方改革の推進 ア・校務の精選と効率化 （３）情報発信の充実 ア・学校 HP 等による情報発信	ア・学習支援クラウドサービスを用いて、さらなる校務の精選と効率化を組織的に行い、全校一斉定時退庁日等の導入により、部活動の効率化による、働き方改革を推進する。 ア・学校ホームページ、学校ブログを充実するとともに、学校案内やリーフレット等により広く情報発信をする。	ア・時間外勤務時間のさらなる３％以上減少をめざす。 [前年度比 0.2％減少] ア・保護者向け学校教育自己診断「学校の情報提供」を 89％以上とする。 [89％]	ア・全校一斉定時退庁日、時間外の留守番電話対応、WEB による欠席・遅刻連絡等、働き方改革が進んだ。 ・修学旅行付添団や学校説明会におけるグループウェアの活用により迅速な対応が可能となった。 ・時間外勤務時間 19.6％減少（◎） ア・学校ホームページの「校長ブログを 147 回更新」し、保護者向け学校教育自己診断「学校の情報提供」89％を維持している。生徒会・芸能文化科・部活動による情報発信をさらに充実させる。（○）